

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	防災情報を含む多言語での情報提供事業 ～多言語 FM ラジオ放送と携帯メールマガジン～							
団体名	公益財団法人 札幌国際プラザ							

***** 事業のポイント *****

- ・情報弱者になる可能性のある外国籍市民への多言語での情報提供
- ・災害時に強い情報発信ツールの確保 (FM ラジオ、携帯メール)
- ・日常的にラジオ・携帯メールからの情報に注目してもらえるような工夫 (生活情報・イベント情報の発信)
- ・日本人に向けた多文化共生意識の普及

助成年度	平成 19～23 年度地域国際化施策支援特別対策事業	事業総額	4,405 千円(5 年)
------	----------------------------	------	---------------

事業の内容、成果等

●事業実施の背景

札幌に暮らす外国籍市民は増加傾向にあるが、人口比で 0.5%(約 9,600 名)と大都市としては少なく、居住地域も散在している。日本語の理解度によっては情報弱者となる恐れがある外国籍市民に対しては、とりわけ災害時に迅速かつ確実に情報を提供する必要性が高まっている。

このため、日常的に様々な媒体を介して多言語で情報を提供することで、災害時にも外国籍市民が情報を受け取りやすい環境づくりを進めることとした。

●事業内容・成果

<多言語 FM ラジオ放送「みんなのラジオ」>

(1)放送開始に向けて

札幌市全域に向けた放送にあたり、災害時に地域に密着した情報提供が可能であるコミュニティFM放送を使用。複数のコミュニティFMを電波で繋ぐ「札幌方式」(複数局同時生放送)による放送が可能な札幌市市民情報センターに制作・放送を委託。(平成 23 年度は、合同会社ことららに委託。)

放送枠は、札幌市の広報番組「そら色ステーション」(毎週金曜日 15:00～16:00)の中で 5 分程度を確保。

放送開始にあたり、地域 FM ラジオパーソナリティ、北海道日本語教育ボランティアネットワーク役員、および札幌市市民情報センター職員、当財団職員を常任委員とする検討会議を設置した。

(2)多言語化による情報提供

番組は、日本人パーソナリティと外国語話者がやさしい日本語とその他の言語を使って進行する形式。平成 20 年度は外国人パーソナリティ、平成 22 年度からは札幌市国際交流員(アメリカ、ドイツ、中国、ロシア、韓国)が月替わり・週替わりで担当している。また、ゲストやインタビューに協力いただいた外国籍市民に、母国語で聴取者に向けたメッセージを発信してもらった。



(H20 年度放送の様子)

(3)放送内容・成果

年度	主な内容・成果	番組データ
H19	・将来的な本放送実施に向けた試験放送 第1回「ことばでつなぐ、国際都市さっぽろ」(12/22) 第2回「わたしの国のまつり」(2/9)	試験放送・2回（合計放送時間120分） 出演者17名（うち外国人11名）
H20	・外国人パーソナリティが、毎週札幌在住の外国籍市民にインタビューし、各人の所属する団体の活動や札幌での生活ぶりなどについて紹介する。	7月～毎週金曜日・合計30回（合計放送時間150分） 出演者30名（うち外国人30名）
H21	・札幌で外国人支援・国際交流に関わる外国人・日本人をゲストに迎え、日々の活動内容などを紹介 ・Web版として、FMラジオ版の内容に未放送内容も加えた内容をインターネット上で提供 ・札幌市「家庭防災のしおり」を英・中・露・韓で音声化。番組内で紹介するとともに、Web上に別途コーナーを設けて掲載し、常時アクセスを可能にした。	毎週金曜日・合計30回＋スペシャル2回（合計放送時間210分） 出演者38名（うち外国人18名）
H22	・日本人パーソナリティと国際交流員が、やさしい日本語と月替わりの外国語で放送 ・大学・イベント会場・日本語学校などで外国籍市民にインタビューし、各人の札幌での生活ぶりを紹介 ・Web版の更新時にツイッターで周知 ・収録時に動画を撮影し、Webページに掲載	毎週金曜日放送・合計30回（合計放送時間420分） 出演者73名（うち外国人71名）
H23	・日本人パーソナリティと国際交流員が、やさしい日本語と週替わりの外国語で放送 [第1週:英語、第2週:中国語、第3週:韓国語、第4・5週:ロシア語、ドイツ語、その他の言語] ・放送内容を多言語メールマガジン(後出)と連動 ・FM放送にあわせて動画をストリーミング配信	毎週金曜日放送・合計30回（合計放送時間420分） 出演者75名（うち外国人72名）

(収録・放送の様子)



(4)工夫した点

「みんなのラジオ」は非日本語話者への日常的な情報伝達手段の確保とその周知を第一の目的としたが、同時に聴取者の大多数を占める日本人に向けても、同じ札幌市民としての外国籍住民を身近に感じ、多文化共生の意識を持ってもらうことを目的とした。このため、多くの方に興味を持ってもらえるよう、単なる生活関連情報提供にとどまらず、ラジオ番組としても聴取者が楽しめる内容とすることを意識した。

<多言語携帯メールマガジン>

(1)内容

留学生など外国籍市民の間で携帯電話の普及が著しいこと、携帯電話メールでの情報配信が、平時・非常時を問わず、情報を速やかに届ける手段として有効であることから、平成 22 年度より FM ラジオ放送と並行して日・英・中・韓の 4 言語で携帯メールマガジンの配信を開始。基本情報・イベント情報・子育て情報の 3 テーマを基本に、札幌で生活するうえで必要な情報や多言語で行う催しなどについて毎月配信しているほか、災害時には避難情報などの災害関連情報を配信している。

多言語携帯メールマガジンのチラシ(日・英・中・韓の 4 か国語)



(2)効果・成果

東日本大震災(平成 23 年 3 月 11 日)の発生をうけ、翌 12 日に(特活)多文化共生マネージャー全国協議会による多言語災害情報サイトとNTTの災害伝言ダイヤルの案内をメールマガジンで発信。翻訳にあたっては、CLAIR が配布する災害時多言語情報作成ツールによる自動翻訳を利用した。

また、同年 9 月 5 日の大雨に際しては、気象庁から土砂災害・河川の氾濫などについて警戒の呼びかけがあったため、関連する防災情報を配信した。

(3)工夫した点

平成 23 年度は FM ラジオとメールマガジンの中で、相互に利用を呼びかけたり、情報発信の際には多言語化した情報を共有したりするなど、連携を深めた。

(4)課題

現在、スマートフォン以外の携帯電話では一部の言語が表示できないため、機種を限定したり文字を置き換えたりして対応している。しかし、今後スマートフォンの普及により、パソコン向けに作成されたウェブサイトの閲覧が容易になり、ハングル・簡体字など日英以外の言語のフォントも携帯端末で表示出来るようになることから、より充実した内容の情報提供が可能になるものと期待される。

●今後の展望

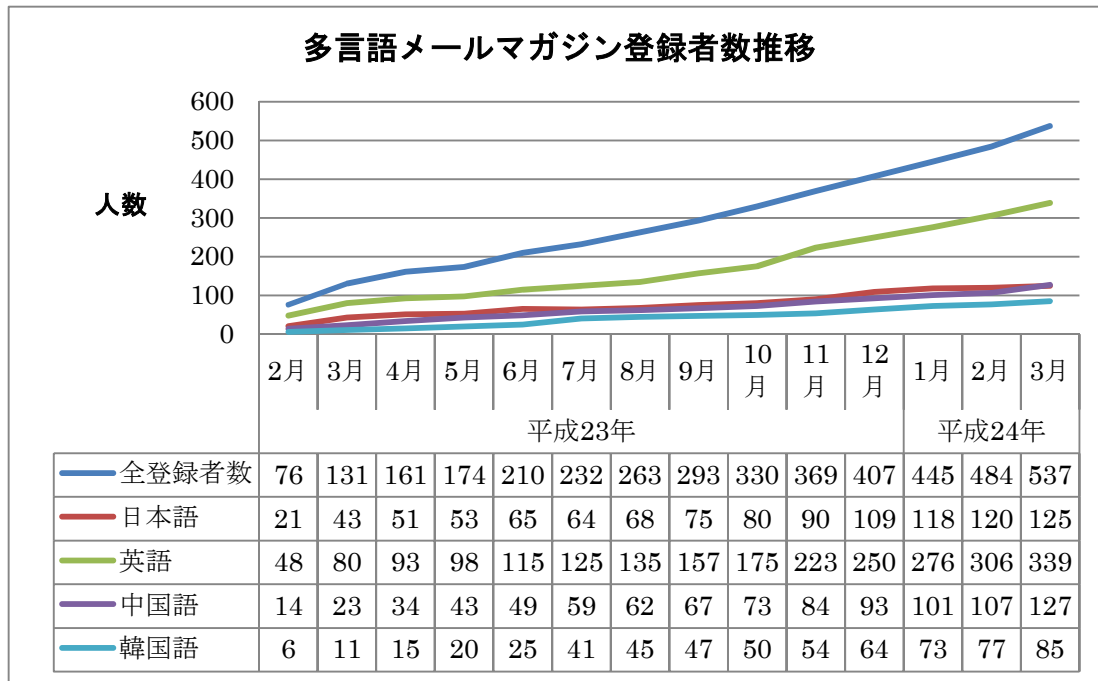
<コミュニティ FM 局との連携>

札幌国際プラザが放送する「みんなのラジオ」は、平成 23 年度で試行を終えたが、地域に根差したリアルタイムの情報を提供するメディアとしてコミュニティ FM は有効であるため、今後も連携を図っていきたい。

<メールマガジンの周知>

FM ラジオ放送を通年で行うためには、番組放送枠と経費（札幌の例では年間 70 万円程度）の確保が必要であることに比べ、多言語携帯メールマガジンサービスは、サーバー管理費とドメイン費用（7 万円弱／年）のみで実施でき、かつ必要な情報をリアルタイムで利用者に提供できることから、常時確保し運用する情報提供手段としては理想的な媒体と考えられる。

メールマガジン登録者数は、サービスを開始してから約 1 年間で 6 倍と順調な伸びを見せている。現在は、札幌国際プラザホームページや、交流サロンのチラシの配架、イベント参加者への呼びかけなどにより登録を呼びかけている。今後は、普段、国際プラザとあまり接点のない対象者や新着の方にもメールマガジンの登録を呼びかけ、災害時の情報対策や国際プラザの活動の周知にもつなげていくことが必要である。



<災害時の対応>

札幌市と地域コミュニティFM局の間で、災害時の非常放送実施については協定締結済である。今後、実際の運用についてシミュレーションするなどして、災害時に備えたい。

メールマガジンは、配信に必要なサーバーが維持されていれば災害時にも即応できるため、東日本大震災発生時の運用を参考に、より適切な手法や内容について検討していきたい。